

# 魅力発信！えひめ農業

令和8年4月

## 【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、4月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>




# 目次



目次	1
4月のトピックス5選	3
さといも「親芋直接採取増殖法」の実証ほを設置	3
さといも優良種苗新增殖技術の確立に向け、本年産の実証を開始	3
ゴールデンウィークにあわせて「さくらひめ」PRイベントを実施	4
一次産業女子が道の駅での販売にチャレンジ	4
川上地区で鳥獣害対策実証計画検討会を開催	5
えひめ農業	6
■東予地方局地域農業育成室	6
幻の白芋「七福いも」の早期採苗、生産実証がスタート	6
電動ラジコンボートによる除草剤散布実演会を実施	6
大玉生産に向けた柿「太天」の摘蕾講習会を開催	7
若い農業経営者大会で取組成果を発表	7
認定栽培者が倍増した西条地区で「ひめの凜」栽培講習会を開催	8
■東予地方局地域農業育成室四国中央農業指導班	8
さといもマルチ実証スタート	8
やまのいも植付け及びマルチ試験を開始	9
■東予地方局産地戦略推進室	9
ユウカリせん定講習会を開催	9
コーヒー栽培の視察会を開催	10
■今治支局地域農業育成室	10
農業女子の新たなグループ「ROOTS」が始動	10
サル捕獲用大型箱わなの適正管理を通じ、集落ぐるみでの対策を指導	11
■今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班	11
上浦再編復旧園（盛、井口工区）において、かんきつ苗木の植付けが完了	11
ICT大型捕獲檻でイノシシ成獣4頭を捕獲するなど、捕獲技術の向上を指導	12
■今治支局産地戦略推進室	12
「しまなみみんなのディッシュ」商品の販路開拓に対する取組を支援	12
■中予地方局地域農業育成室	13
再編復旧園において緑肥作物による草生栽培の実証ほを追加設置	13
JA えひめ中央新規就農研修センターでの就農・研修支援を開始	13
なす産地の強化に向けて今年度の実証を検討	14
■中予地方局地域農業育成室伊予農業指導班	14
「媛かぐや」の加工向け生産を推進	14
「七折小梅」の魅力発信を企画プロデュース	15



コンクール全員受賞！出品支援でつなぐ花き産地の活性化.....	15
耐水性台木「バウンティ」導入によるキウイフルーツ園地若返りを推進.....	16
■中予地方局地域農業育成室久万高原農業指導班.....	16
久万農業公園で今年度の研修を開始.....	16
■南予地方局地域農業育成室.....	17
令和8年度JAえひめ南みかん学校活動開始.....	17
■南予地方局地域農業育成室鬼北農業指導班.....	17
加工桃の振興対策会議を開催.....	17
環境モニタリング一体型自動換気装置の導入による環境制御技術の実践.....	18
■南予地方局地域農業育成室愛南農業指導班.....	18
愛南の農業を担う新星が誕生！研修生3人の就農を全力サポート.....	18
■南予地方局産地戦略推進室.....	19
うめ早期収量予測に向けた取組.....	19
「つるむらさき」の定植始まる.....	19
■八幡浜支局地域農業育成室.....	20
スマート農業技術の実装化に向けて協議.....	20
■南予地方局産地戦略推進室大洲農業指導班.....	20
病虫害被害抑制効果を検証するための実証ほを設置.....	20
青年農業者を対象とした販路開拓研修会を開催.....	21
■八幡浜支局地域農業育成室西予農業指導班.....	21
米粉活用に向けた食育研修会を開催.....	21
小麦・はだか麦の防除本格化に向けて.....	22
■八幡浜支局産地戦略推進室.....	22
さといもの水管理を自動化！現地実証開始.....	22
■農産園芸課高度普及推進グループ.....	23
土着天敵利用による害虫発生抑制効果を検証.....	23
さといも優良種芋増殖技術講習会を開催.....	23

## 4月のトピックス5選

- 標 題	さととも「親芋直接採取増殖法」の実証ほを設置		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月27日	場所	西条市、新居浜市内各地	
指導対象	さととも増殖実証農家(3人)、農業法人(2法人)、(株)中温	連携機関	JA(周桑、えひめ未来)	
普及指導内容	<p>○廃棄する親芋から健全な種芋を採取する「親芋直接採取増殖法」等の技術確立に向け、種苗の増殖実証を開始し、実証ほを管内6か所に設置した。</p> <p>○同増殖法は、親芋の加温や分割時に土壤病害の罹病が確認できるだけなく、定植前の芋の加温により生育が促進されていることが確認されている。</p> <p>○本年度は慣行栽培の種芋も同時に加温し、その増収効果等についても調査する。</p>			
結果と今後	<p>○同時期に定植した慣行区では出芽は見られないものの、加温区では出芽率が既に100%の区もあり、地下部でも旺盛な発根等が確認され、芋の加温処理は本ほにおける初期生育に有利に働いていると示唆された。</p> <p>○今後、局予算事業で同増殖法の確立に取り組む今治支局と連携しながら、新增殖法の確立と技術普及に努め、土壤病害対策や生産コストの低減を図る。</p>			
  				
<span>種芋の簡易加温庫（(株)中温）</span> <span>加温した親株の分割作業</span> <span>親芋直接増殖株と慣行栽培株</span>				

標 題	さととも優良種苗新增殖技術の確立に向け、本年産の実証を開始		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年4月22日	場所	今治市朝倉、菊間ほか3カ所	
指導対象	実証農家(6人)	連携機関	岩谷産業(株)、伊予農産(株)、JAおちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○優良種芋の安定生産に向け、局予算事業を活用し、親芋の腋芽を用いた優良種苗新增殖技術の実証に取り組んでいる。</p> <p>○昨年度の実証では、100g以上かつ芽長15cm以下の苗で従来の種芋と同等の生産が確認できたことから、今年度は省力化による面積拡大を踏まえ、機械定植に適した40~100gの切断芋(新增殖法苗)を用いた実証を開始した。</p> <p>○併せて、近年問題となっている土壤病害の感染リスクを最小限に抑えるため、種子消毒の徹底及び親芋の選別方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○新增殖技術では、収穫時(親芋の割口の状態)、萌芽させた時(親芋と芽の状態)及び親芋を切断した時(切断面の状態)の3回、苗の選抜を行えるため、実証農家からは「病気対策を意識的にできて良い」との評価が聞かれた。</p> <p>○今後は、他地区での実証結果も参考にしながら、関係機関との情報共有等を進め、新增殖法の技術確立及び普及に向けて取り組んでいく。</p>			
  				
<span>藁毛を除去し親芋の状態確認</span> <span>萌芽させた親芋を切断し苗を作出</span> <span>実証ほでの定植指導</span>				

標 題	ゴールデンウィークにあわせて「さくらひめ」PR イベントを実施		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年4月23日～30日	場所	松山城ロープウェイ駅舎	
指導対象	—	連携機関	松山城総合事務所	
普及指導内容	○「さくらひめ」の更なる認知度向上と需要喚起を目的に、PR イベントを実施した。 ○イベント期間中、ゴールデンウィークに増加する県内外の来訪者や訪日観光客に向けてPRするため、駅舎内に「さくらひめ」の切り花と鉢物、紹介パネル等を展示した。			
結果と今後	○展示の前で足を止めた来訪者からは、「淡い桜色が可愛らしく、とても気に入った」「愛媛県が育成した品種があることを初めて知った」等の感想が聞かれた。 ○また、英語の紹介パネルに見入ったり、ボリューム感のある花の前で記念撮影する訪日観光客の姿も多く見られ、「さくらひめ」のイメージアップにつながった。 ○引き続き、生産技術指導と合わせて、幅広い世代での認知度向上と消費拡大につながるPR活動を展開し、生産者の収益向上を目指す。			
				
会場での展示		展示を観覧する来訪者		

標 題	一次産業女子が道の駅での販売にチャレンジ		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月23日	場所	宇和島市津島町	
指導対象	宇和島ルリアン（一次産業女子ネットワーク・さくらひめメンバー6人）	連携機関	—	
普及指導内容	○一次産業女子メンバーが、この度リニューアルした「道の駅 津島熱田温泉」内に、地元の米を活用したおにぎりや米粉パン等を販売する新店舗「うぶすな」を出店するとともに、直売所での加工品販売に乗り出すなど、活発な活動を展開している。 ○当室では、同メンバーに対し、昨年度から女性経営者同士の交流や女性経営者の先進事例調査等を通して、経営のステップアップを支援している。			
結果と今後	○メンバーの山下由美氏（企業組合あすも 代表・「うぶすな」店主）は「自分達の手で地域の価値を届け、地域を盛り上げていきたい。」と意気込みを語る。 ○今後、新たな成長フェーズとして県内外の一次産業女子との連携活動にも取り組むこととしており、当室は引き続き一次産業女子メンバーの活動を支援する。			
				
		左：新店舗「うぶすな」の展開 右：直売所での加工品販売		

標 題	川上地区で鳥獣害対策実証計画検討会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年4月14日	場所	川上共選	
指導対象	猟友会川上支部、川上共選生産部、川上中山間組合（5人）	連携機関	八幡浜支局産地戦略推進室、八幡浜市、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○川上地区では、令和5年度に川上地区鳥獣害対策地域連携協議会を発足させてから、地域ぐるみで様々な鳥獣害対策に取り組んでおり、2月19日にはWM（ワイヤーメッシュ）設置講習会を開催したところ。</p> <p>○今般は、高周波音機器による鳥類被害対策実証の継続、新たに取り組むヒヨドリ捕獲実証の他、シカの動向調査について実証内容の詳細を協議した。</p>			
結果と今後	<p>○高周波音の実証は、これまでの園地毎の調査からエリア別の調査にシフトし、カラス被害の多い白石地区、上泊地区エリア内において効果を測定するため、高周波音量を一律45dB（デシベル）以上になるように事前調査することとした。</p> <p>○また、ヒヨドリの生態把握のための事前の捕獲や、秋以降に実証する捕獲檻（3機種）の設置場所や管理運営について申し合せるとともに、八西地区でも近年増え始めたシカの動向について猟友会と連携し、調査することとした。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">  <p>川上地区鳥獣害対策に係る実証検討会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高周波音発生装置</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>片道入口ゲート式捕獲檻</p> </div> </div>				

## えひめ農業

標 題	幻の白芋「七福いも」の早期採苗、生産実証がスタート		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月20日	場所	新居浜市角野	
指導対象	白いも生産農家(2人)	連携機関	新居浜市、JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○新居浜市大島で生産されている白芋「七福いも」の陸地部での生産拡大や安定生産技術確立を図るため、早期採苗による生産実証をスタートした。</p> <p>○種芋の加温には、「儲かるモデル産地育成システム確立推進事業」を活用して導入した閉鎖型育苗システムが使用されており、早期育苗に伴うハウス加温経費の削減が図られている。</p>			
結果と今後	<p>○閉鎖型施設内の加温及びLED照明により種芋は順調に生育し、3月中旬から無加温の採苗ハウスに定植後、4月中旬からは本ぼでの芋蔓の定植が始まっている。</p> <p>○今後も引き続き地域特産品としてブランド化を進める市と連携しながら、白芋産地の育成を図る。</p>			



閉鎖型施設での種芋の加温



市関係者との芋蔓の採苗



実証ほ場での芋蔓の定植

標 題	電動ラジコンボートによる除草剤散布実演会を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月22日	場所	西条市多賀	
指導対象	生産者(3人)	連携機関	バイエルクロップサイエンス(株)、大信産業(株)、JA周桑	
普及指導内容	<p>○水稻栽培における雑草防除手法として注目されている電動ラジコンボートを用いた除草剤散布の実演会開催を支援した。</p> <p>○実演会では、電動ラジコンボートに初中期除草剤を搭載し、処方診断に基づいて有効成分を適切な量・適切な時期に散布するテーラーメイド防除を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「ボートが軽量で操作が簡単である」などの意見が聞かれた。</p> <p>○この手法は免許が不要である点も含め、経済的かつ効率的な除草剤散布手法として有効であると考えられる。</p> <p>○今後も当室では、スマート農機を活用した新技術の実証に取り組み、省力化による経営の安定化を図る。</p>			



実演会の様子



ラジコンボート



除草剤散布

標 題	大玉生産に向けた柿「太天」の摘蕾講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月27日	場所	西条市田野	
指導対象	太天生産者（31人）	連携機関	JA（周桑、東予園芸）、田滝青果出荷組合	
普及指導内容	<p>○管内の太天生産者を対象に、生産者同士の技術交流及び大玉果生産推進を図る目的で摘蕾講習会を開催した。</p> <p>○昨年度は、着果量が多く小玉傾向であったため、摘蕾の徹底による結実安定と肥大促進につなげる重要性、摘蕾のポイントについて説明した後、実演を行った。</p> <p>○講習会の後、果実の高温・日焼けの対策資材についてメーカーから情報提供の時間を設け、周知を行った。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「摘蕾を見直す良い機会になった」との声があり、大玉生産に向けた意欲的な姿勢がうかがえた。</p> <p>○当室では、日焼け果やへたすき対策に関する試験を実施する予定で、結果等について生産者に情報を提供していく。</p> <p>○次回は7月に摘果講習会を開き、大玉果生産に向けた栽培技術について引き続き指導する。</p>			



現地ほ場（太天平棚園）



摘蕾方法について説明



摘蕾作業の実演

標 題	若い農業経営者大会で取組成果を発表		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月30日	場所	松山市民会館	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会員（4人）	連携機関	西条市、新居浜市	
普及指導内容	<p>○第62回愛媛県若い農業経営者大会において、県内各地区の代表によるプロジェクト発表及び意見発表が行われ、当地区からはプロジェクト発表を行った。</p> <p>○プロジェクト発表では、乾田直播や代かきなどの省力化技術に関する検討と、「にじのきらめき」の高収量化に向けた多肥栽培試験について発表が行われた。</p> <p>○質疑応答では、乾田直播に関しての質問や、穂肥の適正量などに関する質問などが出され、活発な議論が展開された。</p>			
結果と今後	<p>○県内各地の青年農業者が一同に会することで、各地の特徴的な取組が共有され、愛媛の農業発展の機運が醸成された。</p> <p>○今後も青年農業者や新規就農者に対し、細かな支援活動を継続する。</p>			




プロジェクト発表






乾田直播ほ場の視察








収穫時の「にじのきらめき」




標 題	認定栽培者が倍増した西条地区で「ひめの凜」栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月23日	場所	JA えひめ未来(新居浜経済センター、西条あぐりセンター)	
指導対象	JA えひめ未来「ひめの凜」認定栽培者(174人)	連携機関	JA えひめ未来 農産園芸課	
普及指導内容	<p>○8年度の「ひめの凜」の栽培開始を前に、栽培管理の徹底と認定栽培者制度の再確認を目的に栽培講習会を開催した。</p> <p>○当室からは、「ひめの凜」の品種特性、令和7年産の状況を踏まえて重要な作業である水管理、中干し、穂肥施用、適期収穫等「プレミアムクオリティ米」を目指した栽培管理及び認定栽培者への注意事項を説明した。</p> <p>○農産園芸課からは、愛媛県リアルタイム農業指導ネットワークの利用者登録を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○JA えひめ未来カントリーエレベータは、令和8年産から「にこまる」に代わり「ひめの凜」を集荷するため、認定栽培者が倍増しており、今回の研修会に新規栽培者と既栽培者が多数出席し、「ひめの凜」への期待の高さがうかがえた。</p> <p>○当室では、6月末～7月初めに中干し講習会の開催を計画しており、「プレミアムクオリティ米」の生産に向け、指導を継続する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>会場の状況(新居浜)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>栽培管理の説明(西条)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>会場の状況(西条)</p> </div> </div>				

標 題	さといもマルチ実証スタート		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年4月10日	場所	四国中央市内各地	
指導対象	さといも生産者(4人)	連携機関	JA うま	
普及指導内容	<p>○さといもは、夏秋期の高温の影響を受け生育不良や品質低下が著しく、その対策技術の確立が急務となっている。</p> <p>○そこで、当班は生育や品質向上を図るためJA うまと連携し、銀黒マルチや有孔マルチの効果を確認する実証ほを設置した。</p>			
結果と今後	<p>○各実証ほは、施肥後、マルチ被覆前か後に定植が完了したところで、今後、定期的に地温を測定し、地温の上昇抑制効果等の確認を行うこととしている。</p> <p>○また、定期的の実証ほ等を巡回し、生育や病害発生状況を確認しながら、時期別の技術対策等について生産者等への的確な指導をしていく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>定植を終えた実証ほ</p> </div> </div>				



標 題	やまのいも植付け及びマルチ試験を開始		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和8年4月9日、17日	場所	四国中央市土居町各地	
指導対象	やまのいも生産者（2人）	連携機関	JA うま、(株) JA ファームうま	
普及指導内容	<p>○やまのいもは四国中央市の特産作物であるが、生産者の高齢化やさといも栽培への移行等により、面積の減少と品質の向上が課題となっている。</p> <p>○栽培の省力化及び秀品率向上のため、管内2ヶ所で定植作業の機械化を想定した植付け試験及び春先の地温確保による初期生育促進を目指したマルチ資材の比較検討試験を開始した。</p>			
結果と今後	<p>○植付け試験では、植付け時の芋の向きの違いによる発芽状況や収量等のデータを収集し、定植作業の機械化の実用性を検討する。</p> <p>○マルチ資材試験では地温を定期的に測定し、地温と発芽状況及び収量、品質の関係性を調査し、初期生育の促進効果等の確認を行うこととしている。</p>			
				<p>左：植付け試験実証ほ</p> <p>右：白黒マルチ（慣行）と銀黒マルチの比較試験</p>




標 題	ユーカリせん定講習会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年4月22日	場所	西条市内各地	
指導対象	JA 周桑ユーカリ生産者（15人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○JA 周桑のユーカリ生産者に対し、ユーカリのせん定方法について講習した。</p> <p>○ユーカリの特性や品種ごとに特徴の違いを説明し、せん定で注意するポイントについて資料を用いて周知した。</p> <p>○定植後3年目のユーカリの株を実演でせん定しながら、整枝方法や樹形づくりの考え方を説明した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、収穫時期の違いによるせん定の方法や、園地の環境に合わせた樹形など、より実践に即した質問や協議が活発に行われた。</p> <p>○詳細な管理や販売については、引き続き JA 周桑と連携を密に取り組んでいく。</p> <p>○なお、参加者から実際の現場での指導依頼があり、JA と順次対応する。</p>			
				<p>左：品種ごとの特性説明</p> <p>右：せん定講習会</p>


標 題	コーヒー栽培の視察会を開催		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年4月21日	場所	西条市壬生川	
指導対象	コーヒー栽培志向農家（2人）	連携機関	JA（東予園芸、周桑）、（株）GMUS	
普及指導内容	<p>○昨年よりコーヒーの試験栽培を行っている月岡園芸において、コーヒー栽培を志向する農家、関係機関を対象にコーヒーの生育状況を確認する視察会を開催した。</p> <p>○当室からは試験栽培の概要を説明し、最低温度を5℃以上確保できれば東予地域でもコーヒーが健全に生育することを紹介した。</p> <p>○また、コーヒー栽培の協力企業である（株）GMUSからは、国産コーヒーの市場性についての説明や苗木の管理について指導を受けた。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは「コーヒーが5℃で生育できるのは意外だった」「国産コーヒーの販売単価が高いことは魅力だが、販路開拓に不安がある」などの感想が聞かれた。</p> <p>○今後は、国産コーヒーが新たな戦略品目の一つとして定着するよう、引き続き試験データの蓄積と情報発信に努める。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>国産コーヒーの現状について</span> <span>苗木の管理について説明</span> <span>5℃で生育することを確認</span> </div>				


標 題	農業女子の新たなグループ「ROOTS」が始動		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年4月20日	場所	JA おちいまばり営農経済事業部	
指導対象	女性農業者（7人）	連携機関	JA おちいまばり、今治市、（株）マキタ、（株）やまびこジャパン	
普及指導内容	<p>○若手女性農業者を対象に資質の向上やリーダーとしての育成指導を進めており、この度、継続的な活動を実施するため組織化として、新たな農業女子グループ「ROOTS（ルーツ）」の結成を支援した。</p> <p>○結成と併せて、グループ員の要望が高かった農作業安全研修会を実施し、使いやすい電動農機具や農業機械のメンテナンス等について学ぶ機会を設定した。</p>			
結果と今後	<p>○組織名「ROOTS」は、地域に根を張り、活動していくことをコンセプトとしており、グループ員の経営発展に向けて農業技術・知識の習得のほか、農業女子の活動PRや魅力発信に精力的に取り組んでいくことを申し合わせた。</p> <p>○研修会では、トラクターや草刈機等の仕様やメンテナンスの時期・ポイントについての質問が飛び交うなど、理解を深める様子がかがわれており、今後とも組織活動の育成を通して、女性リーダーの養成や活躍推進を図っていく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <span>設立総会で名称等を決定</span> <span>「ROOTS」結成メンバー</span> <span>メンテナンス方法について学ぶ</span> </div>				


標 題	サル捕獲用大型箱わなの適正管理を通じ、集落ぐるみでの対策を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和8年4月8日、20日	場所	今治市玉川町鈍川 今治市朝倉下	
指導対象	大型箱わな管理農家（2人）	連携機関	今治市、猟友会今治支部	
普及指導内容	<p>○サル捕獲用大型箱わな（地獄檻）を設置している2集落の代表者とともに見回りを行い、わな周辺におけるサル出没状況を確認するとともに、傷んだ餌の除去や餌付け方法など適正な管理を指導した。</p> <p>○併せて、近隣農家との連携で提供を受けたかんきつの餌付け指導を行った。</p>			
結果と今後	<p>○高大寺集落では、誘因餌にサルと思われる採食痕が確認されており、センサーカメラを設置し詳細な出没状況調査を開始。</p> <p>○奈良の木集落では、現時点でサルの誘引は未確認であるが、過去に捕獲実績があり管理農家も意欲的なため、捕獲に向けた支援を継続するとともに、カラス等他獣種の誘引が確認されるため、対策を検討することとした。</p> <p>○両集落では夏場も餌付けを継続するため、高温でも日持ちする餌を検討するなど、集落ぐるみでの対策指導を継続していく。</p>			
				<p>左：大型箱わなの設置状況</p> <p>右：高大寺集落での餌の採食痕</p>


標 題	上浦再編復旧園（盛、井口工区）において、かんきつ苗木の植付けが完了		機関名	今治支局地域農業育成室 しなまみ農業指導班
年月日	令和8年4月7日	場所	今治市上浦町	
指導対象	新規就農研修生（5人）、 JA 担当者（2人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○上浦再編復旧園のうち、盛工区（4.5ha）及び井口工区（1.6ha）の未植栽ほ場（計3.8ha）において、3月末までにかんきつ苗木の植付けが完了したことから、JAの新規就農研修生に対し、収益性の優れる樹形への早期育成を目指して苗木の切返しせん定や樹形の整え方を指導。</p> <p>○研修生は、1年生苗木の幹から発生させる主枝の配置を考え、せん定位置を確認するなど、その後の樹形に大きく影響する最初の枝梢管理の重要性を認識しながら作業を進めていた。</p>			
結果と今後	<p>○現在のところ、植付け直後からの周期的な降雨や安定した気温から、苗木の発芽や生育は良好に推移している。</p> <p>○引き続き、苗木の早期樹冠拡大に向けた技術指導を進めながら、再編復旧園の早期成園化を支援していく。</p>			
				<p>左：苗木植付け完了後（盛工区）</p> <p>右：苗木（2年生）のせん定状況</p>

標 題	ICT 大型捕獲檻でイノシシ成獣 4 頭を捕獲するなど、捕獲技術の向上を指導		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和 8 年 4 月 27 日	場所	今治市大三島町	
指導対象	大型捕獲檻実証農家（1 人）	連携機関	しまなみイノシシ活用隊	
普及指導内容	<p>○イノシシの捕獲実証を進めている遠隔監視装置を活用した ICT 大型捕獲檻で、実証農家の協力を得ながら、効果的な餌付けや同捕獲檻入口への誘導など、捕獲技術について指導した。</p> <p>○同捕獲檻の側面数か所が破損したことから、実証農家と破損個所の補強を行うなど、施設の保守管理の方法についても併せて指導した。</p>			
結果と今後	<p>○当該檻で、一度にイノシシ成獣 4 頭の捕獲に成功しており、実証農家は効果を実感している。</p> <p>○実証農家のイノシシ捕獲への意欲も向上しており、効果的な捕獲活動に向けた連携を図りながら、引き続き、捕獲技術の向上と地域のイノシシ被害対策を支援していく。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>捕獲したイノシシ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>捕獲したイノシシで檻が破損</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>檻の修繕を指導</p> </div> </div>				

標 題	「しまなみみんなのディッシュ」商品の販路開拓に対する取組を支援		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 8 年 4 月 21 日	場所	今治市立花	
指導対象	公益社団法人今治青年会議所会員 (25 人)	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○当室は、「しまなみみんなのディッシュ」商品について、イベント出展による PR や店舗での常設コーナ設置等による販路拡大等を支援しており、この度、新たに市内企業を対象にカタログ販売に取り組むこととしている。</p> <p>○当日は会議所定例会の前段に、「しまなみみんなのディッシュ」の紹介や当室の支援内容等を説明するとともに、カタログ販売や自社運営のカタログ販売への出展、イベント開催における連携等、販路拡大に係る協力を依頼した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、自社に持ち帰って検討する等の前向きな意見があり、引き続き、要請に応じ柔軟な対応ができるようグループ内の体制を整えていく。</p> <p>○また、5 月 17 日に開催される、今治青年会議所主催のイベント（いまばりテラス）に「しまなみみんなのディッシュ」商品の出展が決定しており、商品及び事業者の PR 等について支援する。</p> <p>○今後も、会議所及び会員の開催するイベントへの出展等において当グループの商品 PR や販売機会の創出に取り組む。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 45%;"> <p>【しまなみみんなのディッシュ】 今治市及び上島町の生産者や加工業者等で組織するグループで、しまなみ地域に芽吹いた加工品等の PR や販路拡大、農業の魅力発信等を実践</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>協力依頼の説明</p> </div> </div>				

標 題	再編復旧園において緑肥作物による草生栽培の実証ほを追加設置		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月6日	場所	松山市由良地区	
指導対象	松山市、砥部町の実証農家（22戸）	連携機関	JA えひめ中央、農村整備第一・二課、農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○中予地区で進めている樹園地の基盤整備園のうち、令和6年度、7年度に造成工事が完了した園地（由良地区ほか計5地区・22園地）において、土壌保全や土づくりに関する実証ほを設置し、緑肥作物の「テフグラス」や「ソルゴー」などは種している。</p> <p>○実証の目的は、地力の乏しい基盤整備園において緑肥作物による草生栽培が、土壌環境の改善や土壌侵食防止に効果があるのか把握・検証するもの。</p> <p>○今回は、令和7年度に造成が完了した園地（約100a）において、トラクターによる耕うんと「テフグラス」のは種を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○今後、緑肥作物による地表面の被覆状況や土壌保全への効果を把握するほか、かんきつ苗木の生育調査と土壌分析に基づいた土壌改良効果を検討。</p> <p>○これらの結果は、新たに基盤整備が完成した園地での営農指導に活用する。</p>			
				
は種の状況		トラクターの耕うん作業		せとか園の樹列間耕うん

標 題	JA えひめ中央新規就農研修センターでの就農・研修支援を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月9日	場所	JA えひめ中央本所	
指導対象	JA えひめ中央研修センター研修生（47人（内修了8人、新規21人））	連携機関	JA えひめ中央、えひめ農林漁業振興機構	
普及指導内容	<p>○当室から研修修了生や新規受入生等に対し、担い手確保に関する支援制度や就農に向けた心構えを説明するなど、スムーズな就農と経営安定に向けた指導を行った。</p> <p>○また、その後の意見交換では、新規就農にあたっての意気込みや直面している課題など具体的な意見を聴取した。</p>			
結果と今後	<p>○研修修了生及び研修生からは強い意気込みが聞かれたものの、県外出身12人を中心に、就農地の選定に不安を抱えている研修生が一定数見られた。</p> <p>○研修生や修了生が就農・定着できるよう同研修センター等と連携しながら濃密に支援するとともに、管内にあるJA研修センターや公立研修機関と連携した5機関合同研修会を昨年度に引き続き行うなど、新規就農者確保・定着に向けて取り組んでいく。</p>			
				
			左：就農、経営安定に向けた指導	
			右：修了生が就農に向けた意気込みを報告	

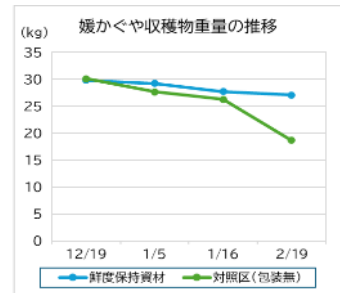
標 題	なす産地の強化に向けて今年度の実証を検討		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月15日	場所	JA えひめ中央城南統括経済センター、松山市荏原	
指導対象	JA 営農指導員等 (6人)	連携機関	JA (全農えひめ、えひめ中央、松山市)	
普及指導内容	<p>○当日は、天敵「タバコカスミカメ」の温存植物「クレオメ」の苗無料配布に関して、JA 育苗センターでの生育状況や部会員への配布方法等を検討した。</p> <p>○また、JA えひめ中央からは、高温対策として令和7年に実証したBS (バイオスティミュラント) 資材と被覆資材の結果報告があり、これを踏まえて今年度の実証内容や調査方法等を検討した。</p>			
結果と今後	<p>○クレオメ苗は5月中旬から生産者に順次配布し、苗が活着した時期に天敵を放飼することを申し合わせた。</p> <p>○また、JA えひめ中央管内の施設なすほ場を訪問し、クレオメの生育や定植位置等を確認した。</p> <p>○BS 資材及び被覆資材については、両 JA が実証ほを設置することを申し合わせた。</p> <p>○今後は、両 JA 部会合同の現地研修と実証結果報告会を開催する予定である。</p>			
 <p>現地ほ場でクレオメの生育を確認</p>				

標 題	「媛かぐや」の加工向け生産を推進		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年4月2日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	生産者ほか (15人)	連携機関	(株) ダイイチフーズ、JA (全農えひめ、松山市)	
普及指導内容	<p>○「媛かぐや」流通情報交換会を開催し、生産者に対して、加工出荷することによる収入の安定や選別労力の軽減といった利点を提示した。</p> <p>○また、加工向けの収穫時期の調整や品質保持等の課題に関しては、令和7年度に実施した鮮度保持資材の効果を報告するなど、生産者と加工業者との共通認識を図った。</p> <p>○さらに、冷凍サンプルの展示や加工品の試食を行い、特徴を共有した。</p>			
結果と今後	<p>○試食では「愛媛農試V2号 (商標：伊予美人)」と比較することで、粘りや歯ごたえといった本種の特性やその違いを再確認できた。</p> <p>○今後は、実需者ニーズに応えるため、定植期講習会や栽培講習会を開催し、加工に適した大型・多収栽培の技術指導を強化するとともに、流通販売ルートの確立を目指す。</p>			


- 【加工品の特徴】**
- ①媛かぐやの竜田揚げ  
粘りは控えめで歯ごたえが残る。
  - ②伊予美人の竜田揚げ  
粘りが強くしっとりとした食感。
  - ③媛かぐやの竜田揚げ (冷凍サンプル)
  - ④媛かぐやの乱切り (冷凍サンプル)





加工品の外観






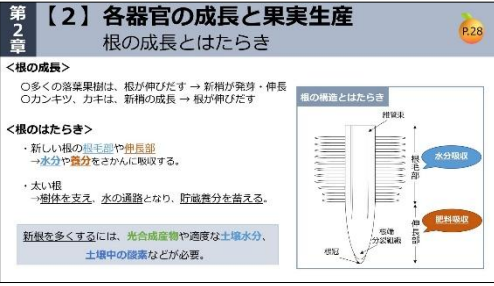
鮮度保持資材の試験結果


標 題	「七折小梅」の魅力発信を企画プロデュース		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年4月15日	場所	砥部町七折地区	
指導対象	ななおれ梅組合員(1人)	連携 機関	愛媛CATV	
普及指導 内容	<p>○「七折小梅」のブランド力強化と認知度向上を図るため、愛媛CATVによる情報発信を、当班が企画・プロデュースした。</p> <p>○今回の番組「地産地消でいただきます！」の構成では、単なる紹介に留まらず、産地の歴史的背景や生産者の緻密な栽培技術、高付加価値を狙った加工品開発といった「産地の強み」が効果的に伝わるよう、助言・指導を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○生産者は歴史の重みと培われてきた技術を再認識し、安定生産に向けた意欲を高める契機となった。</p> <p>○番組は5月中に計16回放映され、視聴者に対し効果的にPRされる。</p> <p>○今後も関係機関と連携し、高品質安定生産技術の確立を支援するとともに、広報活動を通じて産地のブランド力を高める。</p>			
 <p>本年産の七折小梅</p>				



標 題	コンクール全員受賞！出品支援でつなぐ花き産地の活性化		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年4月17日	場所	農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	伊予花き研究会(5人)	連携 機関	県花き園芸組合連合会 農産園芸課	
普及指導 内容	<p>○管内は、鉢物・苗物の生産が盛んであり、生産者グループ「伊予花き研究会」の活動を支援している。</p> <p>○地域の花き振興に向け、同日開催された「えひめ花まつり」コンクールを技術研鑽の好機と捉え、会員に対し、高品質な鉢物・苗物の積極的な出品を促すとともに、その生産に向けた意識啓発を図った。</p>			
結果と 今後	<p>○その結果、目標を上回る31点が出品され、ダリアで松前町長賞を獲得するなど会員全員が受賞し、目に見える成果が得られた。</p> <p>○展示後の即売会では、消費者から「生産者の努力が伝わる花で嬉しい」といった反響があり、生産者の大きな自信につながった。</p> <p>○今後も展示機会の活用や技術指導を通じ、産地の活性化と高品質生産体制の強化を継続的に支援していく。</p>			
 <p>コンクールでの展示</p>				


標 題	耐水性台木「バウンティ」導入によるキウイフルーツ園地若返りを推進		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和8年4月27日	場所	JA えひめ中央中山支所	
指導対象	JA えひめ中央中山支部キウイフルーツ部会(40人)	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	<p>○近年、キウイフルーツ改植に伴う苗木の生育不良や枯死が深刻な問題となっている。</p> <p>○その対応策として、当班では、樹勢と耐水性に極めて優れた台木「バウンティ」の普及を推進しており、講習会では、同台木の特性や導入のメリット・デメリットを詳しく説明し、理解を促した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、入手方法や具体的な育苗管理に関する質疑が相次ぎ、生産者の導入意欲と関心を高めることができた。</p> <p>○今後は導入希望者を募るとともに、自らが円滑に苗木を確保できるよう、当班が挿し穂を準備するほか、接ぎ木やほ場管理等の育成技術を指導することで、早期成園化による未収益期間の短縮と産地の収益力向上を図る。</p>			
 <p>講義に耳を傾ける生産者</p>				


標 題	久万農業公園で今年度の研修を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和8年4月1日	場所	久万農業公園	
指導対象	久万農業公園研修生(6人)	連携機関	久万高原町営農支援センター JA 松山市	
普及指導内容	<p>○久万高原町営農支援センターでは、新規就農者確保・育成のための研修事業を実施しており、今年度は3人(町内1人、町外2人)の研修生を受入れた。</p> <p>○これにより、同センターの研修生は計6人(2年目3人、1年目3人)となった。</p> <p>○同日開催された受入式後、オリエンテーションとして、町・JAから研修の心構えや生産者組織の概要説明があった後、当班から、トマト栽培の技術習得のため、今月から作業が始まる育苗管理・定植準備について、勉強会を開催した。</p>			
結果と今後	<p>○研修期間は2年間であり、前年度の卒業生2人は4月から町内で就農し、トマト栽培を開始している。</p> <p>○当班は、定期的に研修生に対する勉強会を開催し、知識や技術の習得を支援するとともに、卒業生を中心とした若手農業者の生産・経営管理技術の向上についても指導を行い、地域への早期定着と所得の向上を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>左：営農支援センターによる オリエンテーション</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>右：農業指導班による勉強会</p> </div> </div>				

標 題	令和8年度 JA えひめ南みかん学校活動開始		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和8年4月16日	場所	JA えひめ南みかん学校	
指導対象	みかん学校研修生（3人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市	
普及指導内容	<p>○かんきつ農業の担い手確保を目的に、JA えひめ南が令和6年度に設立した「みかん学校」において、今年度は2年目となる研修生3人が受講している。</p> <p>○就農に向けた技術支援として、当室が講師として担当する「果樹栽培の基礎」の1回目となる、果樹の植物生理等について講義を行った。</p>			
結果と今後	<p>○研修生からは「研修2年目となり、復習を意識しながら用語や植物の生態について再確認できた」などの意見が聞かれ、知識習得への意欲がうかがわれた。</p> <p>○今後、「果樹栽培の基礎（全8回）」の講義を継続するとともに、就農支援制度を紹介するなど、研修生が確実に就農できるよう、関係機関と連携して支援していく。</p>			
		<p><b>第2章 【2】各器官の成長と果実生産</b> 根の成長とはたらき</p> <p>○多くの落葉果樹は、根が伸びだす→新根が発芽・伸長 ○カンキツ、力キは、新梢の成長→根が伸びだす</p> <p><b>&lt;根の成長&gt;</b></p> <p><b>&lt;根のはたらき&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい根の根毛部や根長部 →水分や養分をさかんに吸収する。</li> <li>・太い根 →樹体を支え、水の通路となり、貯蔵養分を蓄える。</li> </ul> <p>新根を多くするには、光合成産物や適度な土壌水分、土壌中の酸素が必要。</p> 		<p>左：講義の様子 右：講義資料（抜粋）</p>

標 題	加工桃の振興対策会議を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年4月17日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	—	連携機関	松野町、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○加工桃の生産振興を目的に、実需者及び関係機関が一堂に会し、生産状況や課題について情報共有を図るとともに、省力・安定生産に向けた技術実証の結果及び今年度の計画について協議した。</p> <p>○当班からは、昨年度に実証した「大久保」の無袋栽培、全面ネット被覆による病虫害被害の軽減、枯死症の発生軽減を目的とした台木品種の生育状況などを報告した。</p>			
結果と今後	<p>○「大久保」の無袋栽培については、赤み果実の発生割合や実需者評価から実用化は見送ることとし、「清水白桃」の無袋栽培を新たに検証することとした。</p> <p>○また、カラスやヒヨドリによる鳥害対策として、鳥類に忌避効果があるとされる高周波音発生装置を用いた被害抑制効果についても、新たに検証することとした。</p>			
		<p>加工桃の課題について 関係者で情報共有</p>		



標 題	環境モニタリング一体型自動換気装置の導入による環境制御技術の実践		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和8年4月2日	場所	鬼北町興野々	
指導対象	施設きゅうり農家（1人）	連携機関	—	
普及指導内容	<p>○管内の施設きゅうり栽培では、手動による換気管理が一般的であり、朝晩の開閉や天候による細かな調整は大きな負担となっていた。</p> <p>○当初導入支援を試みた温度変化のみで制御する巻上機では、正常に作動しない等の課題もあったことから、今回、データ収集を目的とした環境モニタリングと自動換気が可能となる巻上機が一体となった装置の導入を支援し、その効果を検証した。</p>			
結果と今後	<p>○導入した農家からは、「往復する手間が省け、時間に余裕ができた。最適な温度管理が自動で行われるため、きゅうりの生育も良くなった」と高い評価を得ている。</p> <p>○今後は、本装置による省力化と品質向上の効果をモニタリング数値とともに“見える化”し、環境制御技術の有用性を示し、地域全体への普及を目指す。</p>			
				<p>左：きゅうりハウス 右：巻上装置</p>


標 題	愛南の農業を担う新星が誕生！研修生3人の就農を全力サポート		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和8年4月23日	場所	愛南町内各地	
指導対象	就農準備研修生（2人）	連携機関	愛南町、愛南町農業委員会、JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○愛南町では、就農準備資金を活用し、JA えひめ南愛南ファーマーサポートおよび農業指導士の指導のもと、3人の研修生が2年間の研修を修了した。</p> <p>○このうち、夫婦で就農する2人については、研修先の農業指導士が中心となり、40aの農地取得や倉庫・機械類の手配を整えることができた。</p> <p>○当班では、就農時の機械装備の充実を図るため、「経営発展支援事業」の計画策定を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○研修期間を通じてかんきつ全般の栽培管理技術や経営・販売知識を習得したものの、就農直後は厳しい経営環境が想定されるため、あわせて「経営開始資金」の申請も支援していく方針である。</p> <p>○残り1人の研修生についても50aの農地を確保できており、当班では、6月下旬に開催される「青年等就農計画認定審査会」に向け、新規就農計画の作成を支援し、将来の愛南農業を担う人材の育成に、引き続き努めていく。</p>			
				<p>就農計画作成を支援</p>


標 題	うめ早期収量予測に向けた取組		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年4月7日、21日	場所	松野町内各地	
指導対象	松野町梅振興会（18人）	連携機関	（株）松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○青うめ需要の新規開拓・販路拡大のために、早い段階でうめの生産状況を把握することが重要であるため、収量予測の判断材料として調査園5か所を観測している。</p> <p>○2月の開花調査で花数が前年より少なかったことから、今年度（1回目）の着果数は、前年比62.2%と少なくなった。</p>			
結果と今後	<p>○着果状況は樹によりばらつきが見られ、例年より結実が若干悪い傾向が見られたことから、今後の生理落果の状況を注視している。</p> <p>○5月上旬の生理落果が終了した時期に最終確認を行い、収量予想による青うめ加工用の販売計画を検討していく。</p>			
				
結実数の調査		着果状況（4月21日）		青うめ加工品の試食



標 題	「つるむらさき」の定植始まる		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和8年4月23日、27日	場所	宇和島市（三間町、津島町清満地区）、愛南町（緑地区、平城地区）	
指導対象	JA えひめ南軟弱野菜部会（18人）	連携機関	愛南農業指導班 JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○施設栽培を中心に4月上旬から定植が始まり、作付け状況を確認した。</p> <p>○「つるむらさき」は、軽量で暑さにも強いため、冬野菜である春菊の端境期に栽培できる夏季葉物として、三間町を中心に栽培を推進している。</p> <p>○昨年作成した栽培マニュアルをもとに、ブロッコリーの産地である愛南町でも栽培を推進したところ、4戸が新たに取り組むことになった。</p>			
結果と今後	<p>○施設栽培では、土壌消毒の実施や定植後の管理の状況等を聞き取り、栽培方法の改善や出荷の長期化に取り組むほか、JAと販促活動を行い需要の創出を図る。</p> <p>○新規に露地栽培に取り組む愛南町の生産者4人に対し、栽培暦を確認し、栽培実証をとおして早期の安定生産を図る。</p>			
				
施設栽培での定植		初期状況を聞き取り		新規栽培者と作付協議

標 題	スマート農業技術の実装化に向けて協議		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和8年4月16日	場所	JAにしうわ本所	
指導対象	—	連携機関	農林水産研究所、JAにしうわ、八幡浜市、伊方町、西宇和スマート農業研究会	
普及指導内容	<p>○西宇和スマート農業推進協議会は、昨年度実証したスマート農業技術の成果と今後の普及について議論を深めようと、実績検討会を開催した。</p> <p>○気象観測装置による収集データに基づく施肥・かん水制御技術や、ドローンを活用した防除の有効性等について実証結果を報告後、普及に向けた課題について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○ドローン活用による施肥・防除の省力化については、かんきつ農家からの関心が特に高く、当協議会では今年度も実証を継続することとしており、今回の検討結果や意見を踏まえより効果的な手法や課題等を把握する予定である。</p> <p>○さらに、昨年度の実証結果については、9月頃に開催予定のスマート農業フォーラムで発表するほか、様々な方法でPRし、スマート農業技術導入の理解促進と普及に努めることとしている。</p>			
<p><b>【西宇和スマート農業推進協議会】</b> 管内へのスマート農業技術の普及を図ることを目的に、関係機関、団体で構成。</p> <p><b>【西宇和スマート農業研究会】</b> 八幡浜市及び伊方町の気象観測装置実証農家8戸から組織される団体。上記推進協議会の構成員。</p>				
		実証成果の報告		ドローンの飛行確認



標 題	病害虫被害抑制効果を検証するための実証ほを設置		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和8年3月26日	場所	内子町（平坦地：川登地区 傾斜地：村前地区）	
指導対象	柿生産者（2人）	連携機関	JA（全農えひめ、愛媛たいき）	
普及指導内容	<p>○柿栽培におけるフジコナカイガラムシの被害軽減を目的とした「交信かく乱性フェロモン剤」の効果的な使用方法を明らかにするための実証ほを設置。</p> <p>○同剤は中山間地域での有効な使用方法が不明であるため、具体的な設置方法等については当班と連携機関、生産者で協議し、決定。</p>			
	<p>○傾斜園地では「交信かく乱性フェロモン剤」を傾斜地の上部に設置し、平坦地では園地に均一に設置するなど、発生抑制による防除作業時間の短縮や被害果率減少・正品率向上結果を、ほ場条件ごとに調査する。</p> <p>○今後、粘着トラップで捕虫したフジコナカイガラムシの数や被害果率等のデータから防除効果を検証し、生産者の所得向上につながる防除体系の構築をめざす。</p>			
<p><b>【交信かく乱】</b> 人工的に合成された雌成虫の性フェロモンにより、雄成虫を惑わす。 その結果、繁殖行為が不成立となり、次世代の害虫発生を抑制する。</p>				
		性フェロモン剤(フジコナ)の設置		調査用粘着トラップ



標 題	青年農業者を対象とした販路開拓研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和8年4月22日	場所	にし川（大洲市田口）	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者連絡協議会 員（18人）	連携 機関	大洲市、内子町、JA 愛媛たいき	
普及指導 内容	<p>○当協議会の会員が生産した農産物等の価値を高めることを目的に、流通・販売や食農教育について学ぶための講演会及び意見交換会を開催。</p> <p>○大阪を中心に県産農産物等の販売や魅力発信などを行っている企業の代表を講師に招き、販路開拓やECサイトでの販売、食農教育の手法について、実際の事例を交え研修し、意見交換を行った。</p>			
結果と 今後	<p>○ECサイトの運営や、都市部の子供たちと生産現場をリモートで繋いだ体験活動など、企業と連携したイベントについて活発な意見交換が行われた。</p> <p>○会員からは、他県から見た愛媛県産品の強みや、卸しの条件や方法など具体的な質問があり、商談や販路開拓につながる一歩を踏み出すきっかけとなった。</p> <p>○当班は、引き続き、農産物等のブランディングや販売力のスキルアップなどの研修の企画、運営を支援し、青年農業者の経営スキル向上を図る。</p>			
 <p>講演会の様子</p>				

標 題	米粉活用に向けた食育研修会を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和8年4月22日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	西予生活研究協議会（19人）	連携 機関	中国四国農政局、西予市	
普及指導 内容	<p>○当班は、協議会員が共通認識を持って意欲的に活動ができるよう、研修会等の開催を支援している。</p> <p>○今回は、中国四国農政局消費・安全部の職場を講師に迎え「持続可能な食を支える食育の推進」をテーマとした講話と、会員間で米粉の活用方法を学ぶ調理実習を実施した。</p>			
結果と 今後	<p>○会員からは、「食育や食品ロスについて学んだことを、食文化普及講座や加工品販売などを通して消費者に伝えていきたい」「思っていたより簡単に米粉を使った調理ができた。今後自分達でも作ってみたい」といった前向きな意見が多く出された。</p> <p>○今年度は、小中学生等を対象にした食文化普及講座や組織研修会、直売所での実演販売等を予定しており、今後も組織活動強化に向けた取組を支援する。</p>			
 <p>左：中国四国農政局の講話 右：米粉を活用した調理実習（しぐれの作製）</p>				

標 題	小麦・はだか麦の防除本格化に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和8年4月8日	場所	西予市宇和地区、JAひがしうわントリーエレベーター	
指導対象	西予無人ヘリ防除連絡協議会（24人）	連携機関	JAひがしうわ	
普及指導内容	<p>○当班は、麦類生産技術向上事業の一環として、無人ヘリのオペレーターを対象とした講習会を開催した。</p> <p>○講習会では、小麦・はだか麦の生育状況及び今後予想される病害虫について確認するとともに、防除で使用する無人ヘリの安全操作の研修を行った。</p> <p>○赤かび病菌は人や家畜に有害なカビ毒であり、基準値を超えると、食品衛生法上流通することができないため、適切な防除が必要不可欠である。</p>			
結果と今後	<p>○4月3日からヘリ防除を開始し、小麦は2回、はだか麦は1回以上の実施を計画している（状況に応じて応急防除を追加）。</p> <p>○当班は、今後も収量・品質の高位安定化と担い手の負担軽減のため、無人ヘリによる防除を支援する。</p>			
<p><b>【西予無人ヘリ防除連絡協議会】</b>          宇和4地区（中川、郷内・西山田、中央、田之筋・伊賀上）で各1機保有し、農家からの申し込みに応じて防除を請け負う。          R7は延べ面積で水稲 849ha、麦 486ha、大豆 267ha で防除を実施。</p>				
				
講習会			無人ヘリ安全講習	

標 題	さといもの水管理を自動化！現地実証開始		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和8年4月24日	場所	西予市宇和地区	
指導対象	さといも生産者（1人）	連携機関	JAひがしうわ、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○さといも栽培では、収量確保のためにかん水が欠かせず、夏は2～3日に1回のかん水が必要で多くの時間を要するため、当室では昨年度より自動給水装置による水管理の省力化の実証に取り組んでおり、この度、新たなほ場に装置を設置し、アプリの操作方法などを農家に対して指導した。</p> <p>○昨年度は水位センサーをほ場中央に設置して水管理を行ったところ、水尻側まで十分に水がいきわたらず、水尻側は大幅な減収となったことから、今年度は水位センサーを水尻側に設置した。</p>			
結果と今後	○今後は、かん水・排水がスムーズに行えるよう、溝の切り方等を指導するとともに、かん水作業に係る時間や生育・収量を調査し、効果を検証する予定である。			
				
自動給水装置の設置		赤丸位置に水位センサーを設置		自動給水装置のアプリ

標 題	土着天敵利用による害虫発生抑制効果を検証		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和8年4月3日、17日	場所	今治市朝倉南	
指導対象	施設トマト生産者（1人）	連携機関	今治支局地域・産地両室	
普及指導内容	<p>○施設トマトでは、重要病害であるトマト黄化葉巻病の発生が懸念されており、病原ウイルスを媒介するタバココナジラミに対する防除対策が重要である。</p> <p>○当グループでは、タバココナジラミの天敵であるタバコカスミカメを導入している施設において、天敵・害虫の発生を経時的に調査している。</p>			
結果と今後	<p>○タバコカスミカメの1株あたり生息虫数は1頭以下であるが、コナジラミ類の発生は極めて少なく、現時点において発生は抑制されている。</p> <p>○トマト黄化葉巻病の発生は認めていない。</p> <p>○生産者は、天敵導入の有用性を実感しており、今後も関係機関と連携して2週間間隔で天敵・害虫の動向を追跡する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：タバコカスミカメ成虫</p> <p>右：発生調査を行う普及職員</p> </div> </div>				

標 題	さといも優良種芋増殖技術講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和8年4月13日	場所	農林水産研究所	
指導対象	JA 全農えひめ・関係 JA・普及職員 (17人)	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○優良種芋増殖技術について理解を深めるため、「親芋副芽セル苗増殖法」について、講習及び実技指導を実施した。</p> <p>○栄養繁殖性で自家増殖が容易であること、種芋更新の重要性や必要性を説明した後、親芋の選定、頂芽・腋芽の除去、薬液への浸漬、培地への伏せ込み等の手順について実習を行った。</p>			
結果と今後	<p>○10人が新規受講者であったが、培地への伏せ込みまでの工程を反復して実習したことで、各作業手順への理解と習熟を図ることができた。</p> <p>○今後は、各産地の要請に応じて個別指導を行い、優良種芋増殖技術の定着を支援する。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   <div style="text-align: right;"> <p>左：農水研職員（中央） の実演に見入る参加者</p> <p>右：伏せ込み前の親芋</p> </div> </div>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543